

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 12 日現在

機関番号：12102
 研究種目：基盤研究(C) (一般)
 研究期間：2018～2022
 課題番号：18K00095
 研究課題名(和文) ミシェル・フーコー「コレージュ・ド・フランス講義」総体の理論的・思想史的研究

 研究課題名(英文) Theoretical and philosophical research on Michel Foucault's College de France Lectures

 研究代表者
 佐藤 嘉幸 (SATO, Yoshiyuki)

 筑波大学・人文社会系・准教授

 研究者番号：90420075
 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、2020年度まで、京都大学人文科学研究所の共同研究「フーコー研究」と共同で研究を行い、その成果を『ミシェル・フーコー『コレージュ・ド・フランス講義』を読む』(佐藤嘉幸・立木康介編、水声社、2021年)にまとめた。2021年度以降は、本研究メンバーを中心として「フーコー研究フォーラム」を立ち上げ、フーコー思想に関する研究を続けてきた。また本研究の延長上で Yoshiyuki SATO, Power and Resistance: Foucault, Deleuze, Derrida, Althusser (Verso, 2022)を英語で出版し、国際的な成果発表を実現した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
 本研究は、成果論集として『ミシェル・フーコー『コレージュ・ド・フランス講義』を読む』を出版した。これはフーコー『コレージュ・ド・フランス講義』を前期I「狂気・規範・言語」、前期II「権力・国家・階級」(1970年代前半)、中期「統治性・生権力・生政治」(1970年代後半)、後期「主体性・真理・パレーシア」(1980年代)に分けて、同講義が扱った多岐にわたる主題を、哲学、科学認識論、社会理論、美学、ジェンダー理論、精神医学理論など複数の視点から論じるものである。外国人研究者の論考も多数収録しているが、その多くは本研究内で行なった講演がもとになっており、本研究が国際共同研究となったことを示す。

研究成果の概要(英文)：The research was conducted in collaboration with "Foucault Studies" (a joint research project of the Institute for Research in Humanities, Kyoto University) until 2020, and the results were compiled in "Reading Michel Foucault's College de France Lectures" (edited by Yoshiyuki Sato and Kosuke Tsuiki, Suisei-sha, 2021, in Japanese). Since 2021, the members of this research group have established the "Foucault Research Forum", and have continued our research on Foucault's thought. As an extension of this research, Yoshiyuki SATO, Power and Resistance: Foucault, Deleuze, Derrida, Althusser (Verso, 2022) was published in English.

研究分野：哲学・思想史

キーワード：ミシェル・フーコー コレージュ・ド・フランス講義 哲学 科学認識論 社会理論 美学 ジェンダー理論 精神医学理論

1. 研究開始当初の背景

ミシェル・フーコーのコレージュ・ド・フランス講義録は、フーコーの死後約10年が経過した1997年に刊行が始まり、2015年にようやく全13巻の刊行が終了した。講義録刊行の終了によって、ようやく私たちは、コレージュ・ド・フランス講義の全体にアクセスすることができるようになった。しかしながら、本講義総体の理論的、思想史的検討は、刊行終了から約2年が経過した現在でもほとんど行われておらず、講義録をその総体として検討し、それが人文諸科学に与える巨大な貢献の射程を確定することは、フーコー研究、そして「フランス現代思想」研究にとって必須の作業となっている。

本研究が目的とするのは、コレージュ・ド・フランス講義の全体を前期、中期、後期の三期に分けた上で、それら三期それぞれに固有の問題構成、そして、それら三期に通底する問題の総体を、単に哲学的観点からのみではなく、科学認識論、社会理論、美学、ジェンダー理論、精神医学理論など複数の観点から明らかにすることであり、また逆に、コレージュ・ド・フランス講義がこれら人文諸科学にもたらす巨大な貢献の射程を確定することである。

2. 研究の目的

本研究は、ミシェル・フーコー(1926-1984年)のコレージュ・ド・フランス講義(1970-1984年、全13巻)の全体像を思想的に確定し、それが人文諸科学にいかなる新たな視座をもたらすかを人文諸科学の複数の視点から理論的に考察する。本研究は、コレージュ・ド・フランス講義を、1)前期(1970-1975年):「権力=知」概念を練り上げつつ、権力関係を規律と戦争モデルによって基礎付ける時期、2)中期(1976-1979年):戦争モデルを発展させて「統治性」概念を練り上げつつ、その概念を自由主義、新自由主義との関係において基礎付ける時期、3)後期(1980-1984年):「統治性」概念を自己と他者の統治へと展開させ、主体自身による主体形成(主体化)について考察する時期、の三期に分割する。そして、それら三期それぞれに固有の問題構成、それら三期に通底する問題の総体を、哲学、科学認識論、社会理論、美学、ジェンダー理論、精神医学理論など複数の観点から考察して、フーコー講義の総体が人文諸科学に与える巨大な貢献の射程を確定する。

3. 研究の方法

研究方法は基本的に文献研究であり、本研究の参加者がフーコーのコレージュ・ド・フランス講義録を哲学、科学認識論、社会理論、美学、ジェンダー理論、精神医学理論など各自の視点から読み解くことで、フーコーが人文諸科学にもたらした貢献の射程を確定する。本研究は、京都大学人文科学研究所の共同研究「フーコー研究」と協力し、定期的開催される研究会において各自の研究を発表して共同で議論することによって、研究内容をブラッシュアップさせ、最終的に成果論集を作成する。

4. 研究成果

本研究は、2020年度まで、京都大学人文科学研究所の共同研究「フーコー研究」と共同で研究を行い、その成果を『ミシェル・フーコー『コレージュ・ド・フランス講義』を読む』(佐藤嘉幸・立木康介編、水声社、2021年)にまとめた。この論集は、本研究参加者と、「フーコー研究」参加者によって執筆された。その目次は以下で閲覧可能である。

<http://www.suiseisha.net/blog/?p=14090>

従来、コレージュ・ド・フランス講義は、フーコーがその著作を執筆するための準備の場であると考えられてきた。しかし、本講義全体が刊行されることによって私たちが理解したのは、本講義がその多くの部分において、フーコーが存命中に刊行した著作とは独立した主題、概念を練り上げる一つの巨大な未知のコーパスをなしていた、という驚くべき事実である。この巨大なコーパスを全体的、総合的に論じる研究は未だ存在しておらず、本論集の独自性は、この巨大なコーパスをフーコー理論総体の中に位置付け、人文諸科学の複数の視点からその革新性を理論的、思想史的に評価、確定することにある(なおこの目的は、本論集に関係したもう一つの論集『フーコー研究』[小泉義之・立木康介編、岩波書店、2021年]にも共有されている。これら二つの論集は、京都大学人文科学研究所における共同研究「フーコー研究」の成果である)。そのため本論集は、コレージュ・ド・フランス講義を以下の三期に分けて、それぞれの特異性を明らかにした。

(1) 前期(1970-1975年)

『知への意志 講義』、『刑罰の理論と制度』、『処罰社会』、『精神医学の権力』、『異常者たち』から構成されるこの時期に、フーコーは考古学からニーチェ的系譜学へと移行しつつ「権力=知」

概念を練り上げ、その概念を通じて権力理論と認識理論を刷新した。「権力=知」概念とは、ある権力関係の構成が、必ずある知の構成を伴う形でなされる、という考えのことである。例えば、精神医学や規律権力の行使は、医学的知、心理学、教育学のような人文科学的知を構成することなしにはなされない。フーコーはこのような「権力=知」概念に依拠して、権力を、諸主体を規律化する規律権力として基礎付けると同時に、そのような規律化の過程を戦争モデルに基づいて基礎付けた。ここで言う「戦争」とは、「社会防衛」のために「異常者」(社会形成を脅かす危険のある者たち、すなわち犯罪者、狂人、失業者など)を排除、隔離する闘争のことである。そのような闘争は、規律権力によって「異常者」の規律化、規範化を試み、規律化されない主体を隔離空間(病院、監獄)に排除する。

私たちはこの時期の講義を、便宜上二つのカテゴリーに分けた。まず「前期Ⅰ」では、初期フーコーが扱ってきた狂気の問題と科学認識論的な問いを系譜学的観点から論じ直し、『性の歴史』第一巻(『知への意志』)への導入ともなる、『知への意志 講義』、『精神医学の権力』、『異常者たち』を扱う。武田論文は『知への意志 講義』から出発して、1970年代から晩年の1980年代に至るまで、「狂気」の言語の問題が、ある種の実践や身体性の問題として、フーコー思想に通底して存在することを示す。田中論文は、『異常者たち』を分析し、「規範」による「異常者」の「正常化」の問題を、「個体的で局所的な真実=真理の生産」との関係において考察する。ドリール論文は、『精神医学の権力』、『異常者たち』から、フーコーと脳科学(ニューロサイエンス)の知られざる関係と、フーコーが『精神医学の権力』で提示した「神経学的身体の登場」という問題系について考える。

「前期Ⅱ」では、『監獄の誕生』を準備する講義『刑罰の理論と制度』、『処罰社会』を扱う。これらの講義の出版によって初めて明らかになったのは、この時期のフーコーが、アルチュセールの「国家装置」という概念に注目し、その批判的検討を通じて自らの権力理論を、とりわけ「規律権力」に結実する概念を構築していた、という点だ。その意味で、この時期のフーコーはマルクス主義に極めて接近しており、同時にそれを批判的に乗り越えようとしている。佐藤論文は、『刑罰の理論と制度』、『処罰社会』を分析し、アルチュセールの「国家装置(appareil d'État)」からフーコー的「権力諸装置=配備(dispositifs de pouvoir)」への理論的移行と、フーコーによるアルチュセールの乗り越えの試みについて論じる。バリバル論文は、『刑罰の理論と制度』におけるアルチュセールの「国家の抑圧装置」概念の痕跡と、フーコーによるマルクス主義との極めて錯綜した「対決」について論じる。相澤論文は『懲罰社会』(=『処罰社会』)を詳細に読解し、その議論を、「良き労働者」の形成メカニズムの洗練を通じた「懲罰社会」から「規律社会」への移行として跡付ける。箱田論文は、フーコーが『処罰社会』と、その同時期に展開した「人民」概念を、フーコーが監獄情報グループ(GIP)を通じて接触のあったプロレタリア左派(GP)との差異化を通じて論じる。最後にドウフェール論文は、『刑罰の理論と制度』、『処罰社会』の時期にフーコーが中心になって展開し、両講義の問題設定を直接的に駆動していた監獄情報グループの実践を、当事者として詳細に証言する。

(2) 中期(1976-1979年)

『社会を防衛しなければならない』、『安全・領土・人口』、『生政治の誕生』から構成されるこの時期に、フーコーは、戦争モデルを発展させて「統治性」概念を練り上げた。「統治性」とは、規律権力と生権力を包含する、「社会防衛」のための国家の統治テクノロジーの総体であり、フーコーが「生政治」と名付けたものにほぼ等しい。まず『社会を防衛しなければならない』においてフーコーは、「社会防衛」を目的とした社会統治を「別の手段で継続される戦争である」(クラウゼヴィッツの「戦争とは別に手段で継続される政治である」という定式を逆転させたもの)と定義し、統治性を全面的に戦争モデルによって基礎付けた。そして、『安全・領土・人口』では古典的自由主義の分析、『生政治の誕生』では新自由主義の分析を通じて、統治性を(新)自由主義との関係から、環境介入権力として基礎付けた。環境介入権力とは、主体を直接規律化する規律権力とは異なり、主体を自由放任した上で、主体の置かれた環境の設計を通じて主体の行為を統治の望む方向に導くような統治方法である。

最初にメッザードラ論文は、フーコーの「統治性」、「生政治」の理論の中に、『刑罰の理論と制度』、『処罰社会』が見出したような階級闘争、労働力の問題系が、マルクス主義をポスト六八年的にならざるで再定義する仕方であることを示す。藤田論文は、『言葉と物』から統治性論に至るフーコーの人文科学批判を分析しつつ、統治性論において人文科学批判が深化され、「生命的-主権的複合体」という視点が新たに提示されていることを示す。西迫論文は、Covid-19のパンデミック状況を念頭に置きつつ、『安全・領土・人口』における予防接種の議論から、生政治とはどのような統治テクノロジーであるのかを、「セキュリティ」概念との関係において論じる。最後にラッツアラート論文は、フーコーの「生政治」概念をCovid-19のパンデミック状況と新自由主義の世界的支配という試練にかけ、「生政治」概念がマルクスの意味での階級闘争(労働者と資本家の闘争のみならず、男性と女性、白人と非白人の闘争にまで拡張された)を隠蔽してしまうことを批判的に示す。

(3) 後期(1980-1984年)

『生者たちの統治』、『主体性と真理』、『主体の解釈学』、『自己と他者の統治』、『真理の勇気』から構成されるこの時期に、フーコーは統治性概念を、古代ギリシア・ローマにおける主体形成

の問題へと適用し、主体概念の根本的な刷新を図った。後期における統治性とは、主体が自己を反省的に統御し、主体が自己自身を一つの芸術作品のように練り上げる実践（自己統治）の総体であり、その過程において、他者との関係を統御、統治するというもう一つの統治が介入する（自己と他者の統治）。この時期のフーコーによれば、自己の統治、すなわち主体による自己形成（主体化）は、主体と他者との関係性なしには存在しえない。そして、主体が自己を芸術作品のように練り上げる際に重要な役割を果たすのが、真理と勇気である。主体は自己形成を通じて一つの真理に到達することで、それまでとはまったく別の自己へと変容しうる。また、そうした自己変容をもたらす真理を獲得するためには、真理を探究し、獲得した真理を他者に向けて説明する勇気（パレーシア）が必要となる。こうして統治性とは、まさしく「自己と他者の統治」を通じた主体化の実践として再定義される。

まずサボ論文は、講演「批判とは何か」から『自己と他者の統治』、『真理の勇気』までの広範囲のテキストを論じ、1970年代末から1980年代に展開された主体性と真理の関係を、「批判」、「抵抗」概念から分析する。坂本論文は、「規範」概念をめぐるフーコーとカンギレムの密接な関係に着目し、そこから生まれた「規範化される生」という概念が、『快樂の活用』、『自己と他者の統治』、『真理の勇気』のような1980年代のフーコーにおいて、「規範をつくる生」へと転回したことを示す。立木論文は、『自己の解釈学の起源』、『自己と他者の統治』、『真理の勇気』におけるフーコーのパレーシア（真理を語ること）概念を仔細に分析し、そこから「精神分析的パレーシアとは何か」、あるいは「パレーシア的精神分析とは何か」という独自の問いを展開する。久保田論文は、『真理の勇気』が提示する、古代から近代に至るキュニコスの系譜（スキャンダラスな現れとしての、芸術＝生としてのシニシズム）に照らして『狂気の歴史』を再読し、サド＝「非理性」の救出を試みる。最後にバトラー論文は、フーコーのバークレー講義『恐れなき発言』から出発して、フーコーのパレーシア概念と自著『アセンブリ』の集会、抵抗概念の関係について考察する。

2021年度以降は、本研究メンバーを中心として「フーコー研究フォーラム」を立ち上げ、オンラインで公開研究会を行い、フーコー思想に関する研究を続けてきた。また本研究の延長上でYoshiyuki SATO, *Power and Resistance: Foucault, Deleuze, Derrida, Althusser* (Verso, 2022)を英語で出版し、国際的な成果発表を実現した。関連文献として、ネグリ＝ハート『アセンブリ』、バトラー『非暴力の力』を翻訳出版した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計32件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 佐藤嘉幸	4. 巻 -
2. 論文標題 戦争とレイシズムの時代における非暴力のマニフェスト	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ジュディス・パトラー『非暴力の力』	6. 最初と最後の頁 229-250
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 相澤伸依他	4. 巻 16
2. 論文標題 共同討議：フレンチ・フェミニズム	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 表象	6. 最初と最後の頁 68-94
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤嘉幸	4. 巻 2023-01-28
2. 論文標題 構造主義からニーチェの系譜学への移行期のテキスト群としての：ミシェル・フーコー『狂気・言語・文学』	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 図書新聞	6. 最初と最後の頁 5-5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤嘉幸	4. 巻 50-1
2. 論文標題 アントニオ・ネグリ + マイケル・ハート『アセンブリ』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『現代思想』2022年1月号、特集 = 現代思想の新潮流・未邦訳ブックガイド30	6. 最初と最後の頁 102-108
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤嘉幸	4. 巻 10
2. 論文標題 身体の何が問題なのか：ジュディス・バトラーにおけるセックスとジェンダーの形成	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『福音と世界』2021年10月号	6. 最初と最後の頁 30-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤嘉幸	4. 巻 0
2. 論文標題 すべての理論はマイノリティ性へと生成変化しなければならない：『問題 = 物質となる身体』解説	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ジュディス・バトラー『問題 = 物質となる身体』	6. 最初と最後の頁 389-422
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 箱田徹	4. 巻 94
2. 論文標題 気候ではなく世界のあり方（システム）を変えよ：気候危機と運動のラディカリズム	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 季刊ピープルズプラン	6. 最初と最後の頁 74-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 相澤伸依	4. 巻 3403
2. 論文標題 書評：ジュディス・バトラー『問題 = 物質となる身体』（佐藤嘉幸監訳、以文社、2021年）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『週刊読書人』2021年8月20日号	6. 最初と最後の頁 3-3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshiyuki SATO, Takumi TAGUCHI	4. 巻 2021-03
2. 論文標題 Situation de l'aveuglement face a la catastrophe nucleaire : reflexion de la situation post-Fukushima a partir de Gunther Anders	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Philosophy World Democracy (https://www.philosophy-world-democracy.org/situation-de-laveuglement)	6. 最初と最後の頁 1-1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 北川眞也, 箱田徹	4. 巻 1162
2. 論文標題 採掘-採取、ロジスティクス	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 8-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 箱田徹	4. 巻 78-10
2. 論文標題 人口対人民：生政治と恒常的危機に抗する政治的主体の構築	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 福音と社会	6. 最初と最後の頁 10-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西迫大祐	4. 巻 48-7
2. 論文標題 フーコーにおける感染症と安全	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 90-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshiyuki SATO	4. 巻 67
2. 論文標題 Kojin Karatani et la theorie marxiste de la "parallaxe" : au-dela du structuralisme	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Actuel Marx	6. 最初と最後の頁 101-114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤嘉幸	4. 巻 3313
2. 論文標題 ヘーゲルの主体のアレゴリーとしてのヘーゲル受容史：ジュディス・パトラー『欲望の主体：ヘーゲルと二〇世紀フランスにおけるポスト・ヘーゲル主義』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 週刊読書人	6. 最初と最後の頁 6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 箱田徹	4. 巻 48-5
2. 論文標題 採取：現代思想と気候正義の蝶番	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 198-206
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 箱田徹	4. 巻 87
2. 論文標題 変わる欧州の社会運動：左翼ポピュリズムと気候変動問題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 季刊ピープルズプラン	6. 最初と最後の頁 84-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 箱田 徹	4. 巻 1145
2. 論文標題 人民の回帰? : フーコー戦争論のポテンシャルティ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 166-180
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤田公二郎	4. 巻 1145
2. 論文標題 生命的-主権的複合体 フーコーの人文科学批判の射程	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 6-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 相澤 伸依	4. 巻 146
2. 論文標題 フランスの中絶解放運動における三つのマニフェスト 紹介と考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人文自然科学論集	6. 最初と最後の頁 115-131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 武田宙也	4. 巻 18
2. 論文標題 ジャン・ウリと自己のプリコラージュ的創造	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 I.R.S. ジャック・ラカン研究	6. 最初と最後の頁 48-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ジュディス・パトラー (佐藤嘉幸訳)	4. 巻 47-3
2. 論文標題 恐れなき発言と抵抗	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 87-99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤嘉幸	4. 巻 47-3
2. 論文標題 個人的パレーシアから集団的パレーシアへ: 「恐れなき発言と抵抗」へのコメント	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 100-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤嘉幸	4. 巻 1133
2. 論文標題 いかに哲学によって「精神分析と政治」を二重化するか: ヤニス・スタヴラカキス『ラカニアン・レフト』へのコメント	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 23-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤嘉幸	4. 巻 03-09
2. 論文標題 複雑なものを複雑なままに提示することの豊かさと困難: 重田園江『統治の抗争史』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 図書新聞	6. 最初と最後の頁 3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤嘉幸	4. 巻 04-07
2. 論文標題 二つの「考古学」から「系譜学」へ：阿部崇『ミシェル・フーコー：経験としての哲学』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 週刊読書人	6. 最初と最後の頁 3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤嘉幸	4. 巻 04-07
2. 論文標題 「三つの革命」とは何か（廣瀬純、江川隆男との討議）	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 図書新聞	6. 最初と最後の頁 1-3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 相澤伸依	4. 巻 144
2. 論文標題 意志と欲望：『肉の告白』におけるフーコーのアウグスティヌス読解	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東京経済大学 人文自然科学論集	6. 最初と最後の頁 245-254
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤田公二郎	4. 巻 23
2. 論文標題 狂気の呼び声：フーコーの超越論的考古学とその自己解体	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 フランス哲学・思想研究	6. 最初と最後の頁 271-281
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂本尚志	4. 巻 24-25
2. 論文標題 『マルクス=レーニン主義手帖』と高等師範学校	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 京葉論集	6. 最初と最後の頁 41-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 箱田徹	4. 巻 77-2
2. 論文標題 ミシェル・フーコーとキリスト教 「救い」をめぐるたたかい	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 福音と世界	6. 最初と最後の頁 6-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西迫大祐	4. 巻 91-6
2. 論文標題 19世紀イギリスの反予防接種運動における自由と権利について (加藤哲実教授古稀記念論文集)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 法律論叢	6. 最初と最後の頁 349-363
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西迫大祐	4. 巻 91-1
2. 論文標題 エドウィン・チャドウィックの思想における予防の起源について (村山眞維教授古稀記念論文集)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 法律論叢	6. 最初と最後の頁 261-278
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計42件（うち招待講演 9件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 佐藤嘉幸、箱田徹
2. 発表標題 ネグリ = ハート 『アセンブリ』 書評会コメント
3. 学会等名 フーコー研究フォーラム
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 佐藤嘉幸
2. 発表標題 アナーキズムか、社会民主主義か：バトラー 『非暴力の力』 + ブラウン 『新自由主義の廃墟で』
3. 学会等名 フーコー研究フォーラム
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 箱田徹
2. 発表標題 バトラー 『非暴力の力』 + ブラウン 『新自由主義の廃墟で』 書評会コメント
3. 学会等名 フーコー研究フォーラム
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 坂本尚志
2. 発表標題 フーコー 『狂気・言語・文学』 書評会コメント
3. 学会等名 フーコー研究フォーラム
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yoshiyuki SATO
2. 発表標題 Singularite, devenir-soi, revolution antipastorale : le dernier Foucault et son tournant vers la resistance
3. 学会等名 Seminaire "L'empire de l'involontaire et la volonte de n'etre pas gouverne", Universite Paris 8 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yoshiyuki SATO, Jun Fujita Hirose
2. 発表標題 Comment imposer une limite absolue au capitalisme ?: Philosophie politique de Deleuze et Guattari
3. 学会等名 Seminaire "Nietzsche et la philosophie de Deleuze", Universite Paris 8 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yoshiyuki SATO
2. 発表標題 Du groupe assujetti au groupe-sujet : Philosophie politique de Deleuze et Guattari
3. 学会等名 Atelier L'Anti-Edipe, Universite Paris 8 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 佐藤嘉幸、箱田徹、坂本尚志、武田宙也、藤田公二郎、相澤伸依、西迫大祐
2. 発表標題 『ミシェル・フーコー『コレージュ・ド・フランス講義』を読む』公開書評会におけるコメント
3. 学会等名 フーコー研究フォーラム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐藤嘉幸
2. 発表標題 『フーコー文学講義：大いなる異邦のもの』書評会におけるコメント
3. 学会等名 フーコー研究フォーラム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐藤嘉幸、箱田徹
2. 発表標題 『帝国』から『アセンブリ』へ、ネグリ=ハートの軌跡
3. 学会等名 『アセンブリ』刊行記念イベント
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 佐藤嘉幸
2. 発表標題 身体の何が問題なのか：ジュディス・バトラーにおけるジェンダーとセックス
3. 学会等名 ジュディス・バトラー『問題=物質となる身体』オンライン書評会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐藤嘉幸、箱田徹、武田宙也、藤田公二郎、相澤伸依、西迫大祐
2. 発表標題 『フーコー研究』コメント
3. 学会等名 シンポジウム「狂い咲け、フーコー」、京都大学人文科学研究所
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yoshiyuki SATO, Tetz Hakoda
2. 発表標題 Commentaire a l'intervention de Maurizio Lazzarato et celle d'Orazio Irrera
3. 学会等名 Colloque international: Foucault dans l'actualite : des points de vue de l'ecole italienne, Institut des recherches en sciences humaines, Universite de Kyoto
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yoshiyuki SATO
2. 発表標題 L'Accident nucleaire de Fukushima repete-t-il le "systeme d'irresponsabilite"?: Critiquer le jugement du Proces penal de TEPCO
3. 学会等名 Colloque international: Penser Fukushima: Ruptures et continuites de la catastrophe, EHESS (Paris) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yoshiyuki SATO
2. 発表標題 Neoliberalisation et reforme universitaire au Japon
3. 学会等名 Seminaire collectif "Les transformations neoliberales de l'universite dans une perspective internationale", Universite Paris 8 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yoshiyuki SATO
2. 発表標題 Commentaire de l'intervention d'Etienne Balibar: "Critiques de la propriete : le politique et le juridique"
3. 学会等名 Seminaire "L'antagonisme de la forme : Marx, les marxismes et le droit" (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yoshiyuki SATO
2. 発表標題 Effacer la trace de l' accident nucleaire : neuf ans apres l' accident de Fukushima
3. 学会等名 Conference "Penser le nucleaire apres Fukushima", EHESS, Paris (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yoshiyuki SATO
2. 発表標題 福島第一原発事故による基本的人権の侵害 / Violation des droits de l' homme apres Fukushima
3. 学会等名 研究会「近現代の批判的研究 / Journee d' etude sur les "Etudes critiques des modernite"、筑波大学
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 坂本尚志
2. 発表標題 「われわれ」とは誰か? パレーシアする主体の存在論
3. 学会等名 共同研究「フーコー研究: 人文科学の再批判と新展開」、京都大学人文科学研究所
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takashi Sakamoto
2. 発表標題 De l'imaginaire a l'esthetique: les fictions chez Michel Foucault
3. 学会等名 Seminaire "Verite et fiction chez Michel Foucault", Institut des recherches en sciences humaines a l'Universite de Kyoto (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yoshiyuki SATO
2. 発表標題 From Individual Parrhesia to Collective Parrhesia: Reply to "Fearless Speech and Resistance" by Judith Butler
3. 学会等名 Discussion Seminar about "Notes toward a Performative Theory of Assembly" (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐藤嘉幸
2. 発表標題 ドゥルーズ = ガタリと68年5月
3. 学会等名 第32回新潟大学哲学セミナー (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐藤嘉幸
2. 発表標題 生権力 / 生政治とは何か : レイシズム、自由主義、新自由主義
3. 学会等名 共同研究「フーコー研究 : 人文科学の再批判と新展開」、京都大学人文科学研究所
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐藤嘉幸
2. 発表標題 バトラーのパレーシア解釈について
3. 学会等名 共同研究「フーコー研究 : 人文科学の再批判と新展開」、京都大学人文科学研究所
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐藤嘉幸
2. 発表標題 フーコーと新自由主義
3. 学会等名 新潟大学「現代思想論」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 AIZAWA Nobuyo
2. 発表標題 Comment les mouvements de 1968 ont influence le feminisme japonais ? - le cas de Mitsu Tanaka, une icone du feminisme japonais -
3. 学会等名 Colloque international: Il y a 50 ans, mai 68 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 AIZAWA Nobuyo
2. 発表標題 Chupiren, un essai manqué dans le mouvement feministe japonais des années 1970
3. 学会等名 12th Conference of the International Federation for Research on Women's History (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 相澤伸依
2. 発表標題 意志と主体 - 『肉の告白』におけるフーコーのアウグスティヌス読解 -
3. 学会等名 共同研究「フーコー研究：人文科学の再批判と新展開」、京都大学人文科学研究所
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 相澤伸依
2. 発表標題 La Societe punitiveを読む - le penalとle punitifをつなぐla moraleに注目して-
3. 学会等名 共同研究「フーコー研究：人文科学の再批判と新展開」、京都大学人文科学研究所
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤田公二郎
2. 発表標題 生的=主権的複合体 フーコーの人文科学批判の射程
3. 学会等名 共同研究「フーコー研究：人文科学の再批判と新展開」、京都大学人文科学研究所
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 武田宙也
2. 発表標題 フーコーにおける「狂気」の言語の問題
3. 学会等名 共同研究「フーコー研究：人文科学の再批判と新展開」、京都大学人文科学研究所
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 武田宙也
2. 発表標題 ジャン・ウリと自己のプリコラージュ的創造
3. 学会等名 日本ラカン協会第25回ワークショップ
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坂本尚志
2. 発表標題 啓蒙、革命、パレーシア 80年代フーコーの思想における「現在」
3. 学会等名 共同研究「フーコー研究：人文科学の再批判と新展開」、京都大学人文科学研究所
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂本尚志
2. 発表標題 『分析手帖』と『マルクス＝レーニン主義手帖』 1960年代フランスにおける学知、革命、文学
3. 学会等名 日本フランス語フランス文学会2018年度秋季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 箱田徹
2. 発表標題 フーコー研究の最近の動向と今後の展望
3. 学会等名 共同研究「フーコー研究：人文科学の再批判と新展開」、京都大学人文科学研究所
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 箱田徹
2. 発表標題 フーコーとポピュリズム
3. 学会等名 共同研究「フーコー研究：人文科学の再批判と新展開」、京都大学人文科学研究所
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 箱田 徹
2. 発表標題 リベラルでない自由へ：フーコーとアドルノによる「啓蒙とは何か」
3. 学会等名 カルチュラル・タイフーン2018
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西迫大祐
2. 発表標題 『主体の解釈学』における法の問題について
3. 学会等名 共同研究「フーコー研究：人文科学の再批判と新展開」、京都大学人文科学研究所
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西迫大祐
2. 発表標題 感染症予防と統治
3. 学会等名 政治思想史研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西迫大祐
2. 発表標題 感染症と法の社会史について
3. 学会等名 いぼつ会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西迫大祐
2. 発表標題 19世紀イギリスにおける反公衆衛生運動と自由
3. 学会等名 日本法哲学学会学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西迫大祐
2. 発表標題 歴史にみる健康格差
3. 学会等名 東京法哲学研究会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計17件

1. 著者名 Yoshiyuki SATO	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Verso	5. 総ページ数 288
3. 書名 Power and Resistance: Foucault, Deleuze, Derrida, Althusser	

1. 著者名 箱田徹	4. 発行年 2022年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 112
3. 書名 ミシェル・フーコー：権力の言いなりにならない生き方	

1. 著者名 ジュディス・バトラー（佐藤嘉幸・清水知子訳）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 青土社	5. 総ページ数 256
3. 書名 非暴力の力	

1. 著者名 佐藤嘉幸、箱田徹、武田宙也、藤田公二郎、相澤伸依、西迫大祐（他）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 読書人	5. 総ページ数 204
3. 書名 狂い咲く、フーコー：京都大学人文科学研究所 人文研アカデミー『フーコー研究』出版記念シンポジウム全記録+(プラス)	

1. 著者名 アントニオ・ネグリ、マイケル・ハート（佐藤嘉幸・箱田徹他訳）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 492
3. 書名 アセンブリ：新たな民主主義の編成	

1. 著者名 ジュディス・バトラー（佐藤嘉幸監訳）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 以文社	5. 総ページ数 448
3. 書名 問題＝物質となる身体	

1. 著者名 アンドレアス・マルム (箱田徹訳)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 月曜社	5. 総ページ数 263
3. 書名 パイプライン爆破法 : 燃える地球でいかに闘うか	

1. 著者名 佐藤嘉幸、箱田徹、武田宙也、藤田公二郎、相澤伸依、西迫大祐他、	4. 発行年 2021年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 386
3. 書名 ミシェル・フーコー『コレージュ・ド・フランス論集』を読む (佐藤嘉幸・立木康介編)	

1. 著者名 佐藤嘉幸、箱田徹、武田宙也、藤田公二郎、相澤伸依、西迫大祐他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 590
3. 書名 フーコー研究 (小泉義之・立木康介編)	

1. 著者名 Yoshiyuki SATO et al.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Institute for Political Studies, Belgrade	5. 総ページ数 362
3. 書名 Beyond Neoliberalism and Capitalism	

1. 著者名 Nobuyo AIZAWA, Chiharu CHUJYO, et al.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 310
3. 書名 Engendering Transnational Transgressions	

1. 著者名 Yoshiyuki SATO et Takumi TAGUCHI, et al.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Editions Kime	5. 総ページ数 295
3. 書名 Liberte de la recherche : Conflits, pratiques, horizon	

1. 著者名 ジュディス・バトラー (佐藤嘉幸・清水知子訳)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 月曜社	5. 総ページ数 288
3. 書名 権力の心的な生：主体化＝服従化に関する諸理論（改訳新版）	

1. 著者名 西迫大祐他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 国際書院	5. 総ページ数 301
3. 書名 法を使う/紛争文化	

1. 著者名 佐藤嘉幸他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 読書人	5. 総ページ数 324
3. 書名 68年5月 と私たち：「現代思想と政治」の系譜学	

1. 著者名 相澤伸依他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 306
3. 書名 暴力をめぐる哲学	

1. 著者名 西迫大祐	4. 発行年 2018年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 388
3. 書名 感染症と法の社会史：病がつくる社会	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>フーコー研究フォーラム https://www.facebook.com/michel.foucault.research.forum.jp</p> <p>フーコー研究：人文科学の再批判と新展開 http://foucauldianstudies.jp/home.html</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	西迫 大祐 (Nishisako Daisuke) (10712317)	沖縄国際大学・法学部・准教授 (38001)	
研究分担者	箱田 徹 (Hakoda Tetz) (40570156)	天理大学・人間学部・准教授 (34602)	
研究分担者	坂本 尚志 (Sakamoto Takashi) (60635142)	京都薬科大学・薬学部・准教授 (34306)	
研究分担者	藤田 公二郎 (Fujita Kojiro) (60792075)	西南学院大学・国際文化学部・准教授 (37105)	
研究分担者	相澤 伸依 (Aizawa Nobuyo) (80580860)	東京経済大学・全学共通教育センター・教授 (32649)	
研究分担者	武田 宙也 (Takeda Hironari) (80768268)	京都大学・人間・環境学研究所・准教授 (14301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 Foucault dans l'actualite : des points de vue de l'ecole italienne	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 Discussion Seminar about Notes Toward a Performative Theory of Assembly	開催年 2018年～2018年

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
フランス	パリ第8大学	リール大学		
米国	カリフォルニア大学バークレー校	コロンビア大学		
イタリア	ボローニャ大学			
ドイツ	マインツ大学			